

# フィリピン:台風被害復興の国際会議 宣言文を採択

毎日新聞 2014年03月08日 19時20分 (最終更新 03月08日 19時56分)

【マニラ五十嵐朋子】昨年11月にフィリピン南部を襲った台風30号の被災者と支援者が、復興に向けて協議する国際会議が8日、同国マニラ市であった。国際医療支援NGO「AMDA（アムダ）」＝岡山市＝が、一緒に支援活動をしたフィリピンのNGOと共催した。「復興に向けた支援を続け、別の場所で災害があればいつでも助け合う」などとする宣言文を採択した。

アジアを中心とした医療団体などから100人以上が参加。AMDAグループ代表の菅波茂さんが「東日本大震災では、各国から支援者が駆けつけてくれた。だから、私たちがフィリピンの人たちを支えたかった」とあいさつ。12人が死亡、約1500人が負傷したサマル島ギポロス町の町長、マーク・ビヨンさんは「これを機にもっといい町を作る。インフラの復興は進んでいないが、今は我慢の時だ」と話した。

AMDAは昨年4月、アジア13カ国・地域のNGOと災害時に協力するネットワークを結成。台風30号支援ではネットワークを生かし、台風上陸2日後に現地入り、物資提供や医療支援にあたった。



会議には、台風被害を受けたフィリピンで活動したNGO関係者らが各国から集まった＝フィリピン・マニラで2014年3月8日午前10時47分、五十嵐朋子撮影